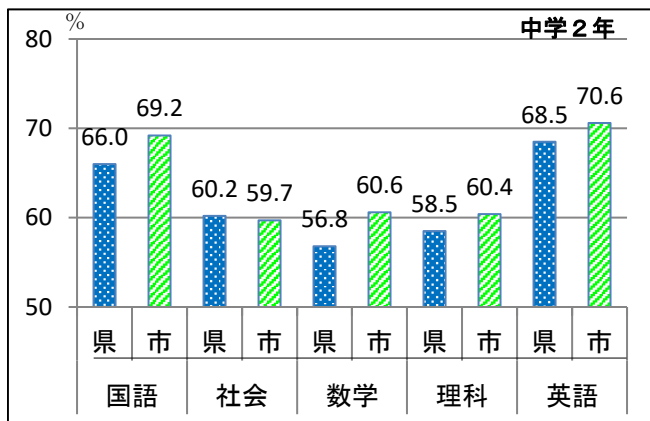


平成30年度千葉市学力状況調査結果概要（中学校版）

1 県と本市の平均正答率との比較



【県平均と比較して概ね良好】

- 国語は3.2ポイント、数学は3.8ポイント県平均を上回り、良好であるといえる。
- 理科は1.9ポイント、英語は2.1ポイント県平均を上回り、概ね良好であるといえる。
- 社会については、0.5ポイント県平均を下回る結果となっている。

2 各教科の改善策

【国語】 学習に興味を持たせ、資質・能力を身に付けさせる言語活動の工夫・改善

- 読みやすくわかりやすい文章を書くために、読み手から助言をもらう言語活動を設定し、助言をもとに自分の文章のよい点や改善点を自分自身で見いだす資質・能力を身に付けさせる。
- 古語と現代語を比較し、意味や使い方の相違点に気付かせるなどの指導の工夫により、今と昔の言葉の関連性に興味を持たせ、古典に親しませる。

【社会】 知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の育成

- 地図、統計、写真資料などを的確に読み取る地理的技能と、諸資料から歴史的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能の習熟につなげる指導方法を工夫する。
- 習得した知識、概念や技能をスパイラル的に繰り返し活用して、新たな社会的事象を読み解くような学習場面を意図的に設定していく。

【数学】 主体的に取り組む数学的活動のより一層の充実

- 「数学的な見方・考え方」を生徒が活用できるような課題の設定や発問の工夫を行い、「数学的活動の楽しさ」を実感できる授業づくりをする。
- 変化の割合、 x の増加量、 y の増加量等の用語を用いて説明する場を設定し、一次関数の表、式、グラフの相互の関係が理解できるようにする。また、表、式、グラフを用いて一次関数を用いた問題を解決したり、説明したりできるようにする。

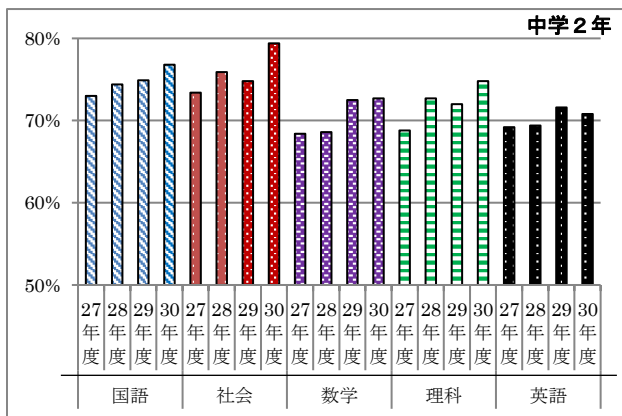
【理科】 目的意識を持たせた観察・実験と根拠を基にした思考力・表現力の育成

- 単元や授業の導入の場面において、目的意識を十分に持たせ、既習事項を生かした根拠ある予想を立てたり、留意点や誤操作等の問題点を挙げたりして、見通しを持って取り組むようにする。
- 結果の分析・解釈・活用では、既習事項を生かした根拠のある予想と比較・検討する活動、モデル化して考え話し合い表現する活動、科学的な根拠に基づいて考察する活動を取り入れる。

【英語】 「聞くこと」、「書くこと」の基本を再確認

- 「聞くこと」において、視覚教材を活用する等、対話の流れを予測させることで、目的に応じて必要な情報を聞き取る力を高められるようにする。
- 「書くこと」において綴りの指導をする際、簡単な語句や文を用いて書くことを取り入れたり、数字・曜日・季節・月名等を繰り返し活用する機会を設けたりすることにより、正確に書くことができるようにする。

3 学習に対する意識（学校の勉強がわかる）



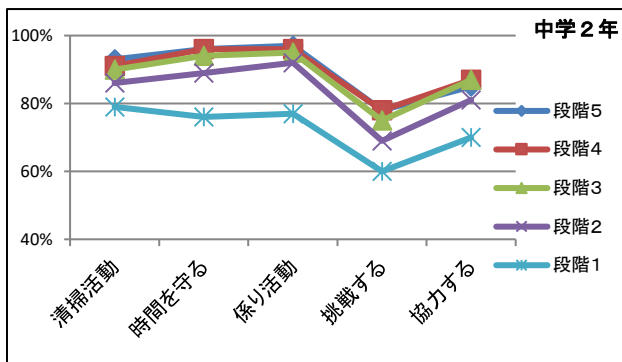
中学校全教科で、「わかる」という肯定的回答率が70%以上

特に国語と数学は年々上昇しており、理科は2.8ポイント、社会は4.6ポイント、前年度に比べて向上している。

前年度に比べて、英語については0.8ポイント、肯定的回答率が低下している。

4 学力と学校生活との関連

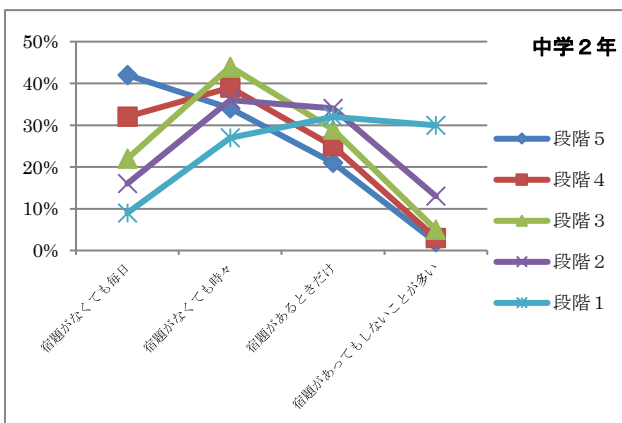
標準偏差により、段階5を成績上位群、段階2～4を成績中位群、段階1を成績下位群としている。



「成績上位群・中位群」と「成績下位群」では、学校生活の態度に大きな差がある

「成績上位群・中位群」と「成績下位群」では、学校生活の態度における肯定的回答率で大きな差が見られる。

5 学力と家庭学習との関連



「成績上位群」は家庭学習によく取り組んでいる

「成績上位群」は宿題がなくても毎日、「成績中位群」は時々家庭学習をしている生徒の割合が大きい。「成績下位群」では、宿題があってもしないことが多い生徒の割合が30%と懸念される数値である。